

## 県内留学生の就職と卒業後の活躍事例 ②

県内留学生の就職と卒業後の活躍事例のシリーズ2回目。今回は、長崎留学生支援センターが実施した留学生アンケートのうち「将来の進路」に関する項目と、卒業後の活躍事例を紹介する。

### 県内大学等の留学生アンケート

#### 長崎留学生支援センターのアンケート概要

1. 調査対象 大学・短大・高等専門学校に在籍する正規、交換、短期の留学生  
主に長崎平和大学参加者 約2,000人
2. 回答者数 352人（正規留学生154人、交換・短期等留学生198人）
3. 調査方法 長崎留学生支援センターが各大学を通じて用紙を配布  
アンケート用紙とWebを使用し実施
4. 実施期間 2017年11月～18年1月
5. 調査内容 長崎への留学の理由、住居状況、アルバイト状況、将来の進路

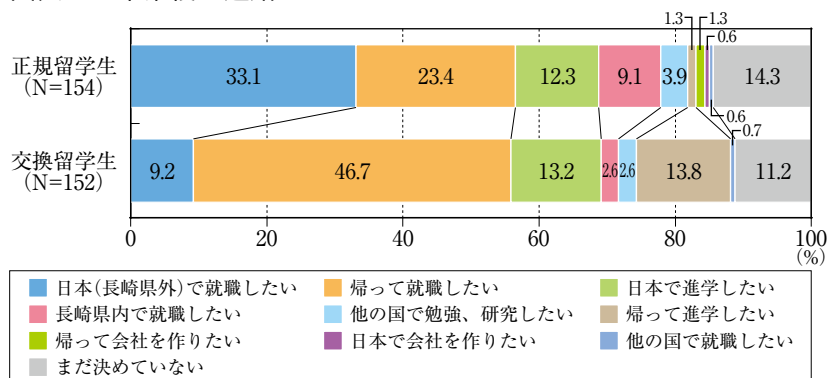
(注) 長崎平和大学への参加者は、来日後2か月以内の留学生が多い  
 正規留学生：学部・大学院の所属で学位取得を目指している留学生  
 交換留学生：大学間の協定に基づいた留学生  
 短期留学生：科目等履修生や特別聴講生等の私費留学生など

長崎留学生支援センターは、県内留学生の「住居の状況」や「将来の進路」などについて、留学生の意向を把握し、今後の支援に役立てようとアンケートを実施した。

このうち、卒業後の進路を尋ねた設問では、正規留学生は「日本で就職したい」が51人（33.1%）と最も多く、以下「帰って就職したい」（36人、23.4%）、「日本で進学したい」（19人、12.3%）、「県内で就職したい」（14人、9.1%）

の順であった。一方、交換留学生は派遣国の教育機関（大学等）に所属しており、長崎での留学を終えて帰国後に派遣の教育機関から卒業となることから、「帰って就職したい」が71人（46.7%）と半数近くに上る。短

図表1 卒業後の進路について



期留学であっても、「長崎で就職したい」が4人（2.6％）と、少数ながら長崎での就職に関心を寄せてくれている。

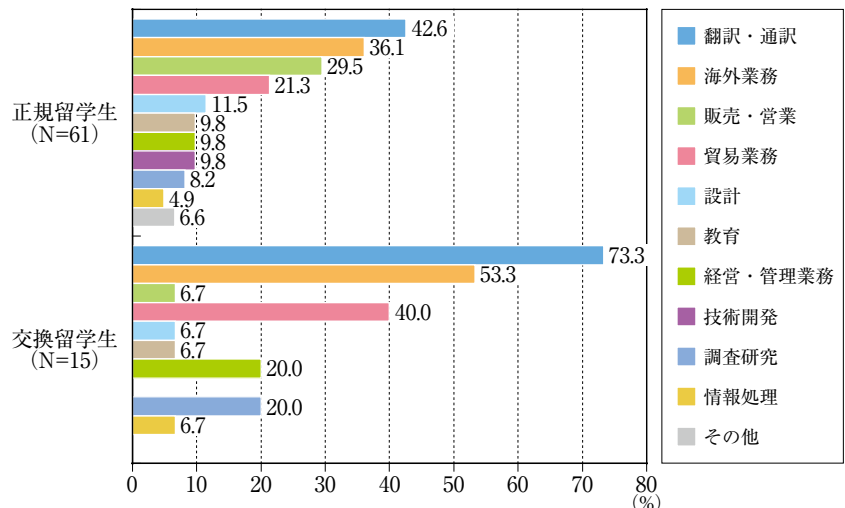
また、**県内への就職希望者**（正規・交換留学生合計19人）に**その理由**を尋ねたところ、「住んでみてとても良かったから」が8人（42.1％）、「友人、知り合いがたくさんいるから」が5人（26.3％）と、長崎での暮らしに対する好印象が主な理由となっている。

一方、**県外での就職希望者**（正規・交換留学生合計58人）に**その理由**を尋ねたところ、「長崎に入りたい企業がないから」が23人（39.7％）と最も多く、以下「長崎には大きな企業がないから」（11人、19.0％）、「給料が安いから」（10人、17.2％）の順であった。

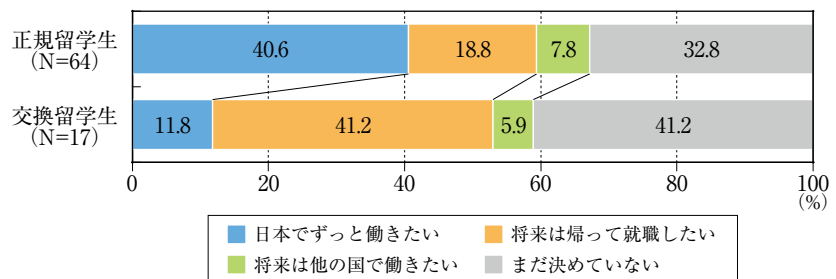
次に、県内や日本で就職を考えていると回答した学生（76人）に、**就職希望分野**を複数回答で尋ねたところ、正規留学生61人のうち、「翻訳・通訳」が26人（42.6％）と最も多く、以下、「海外業務」（22人、36.3％）、「販売・営業」（18人、29.5％）の順であった。一方、交換留学生15人では、「翻訳・通訳」が11人（73.3％）と最も多く、以下「海外業務」（8人、53.3％）、「貿易業務」（6人、40.0％）の順であった。

**日本で就職した場合、その後の将来について**尋ねたところ

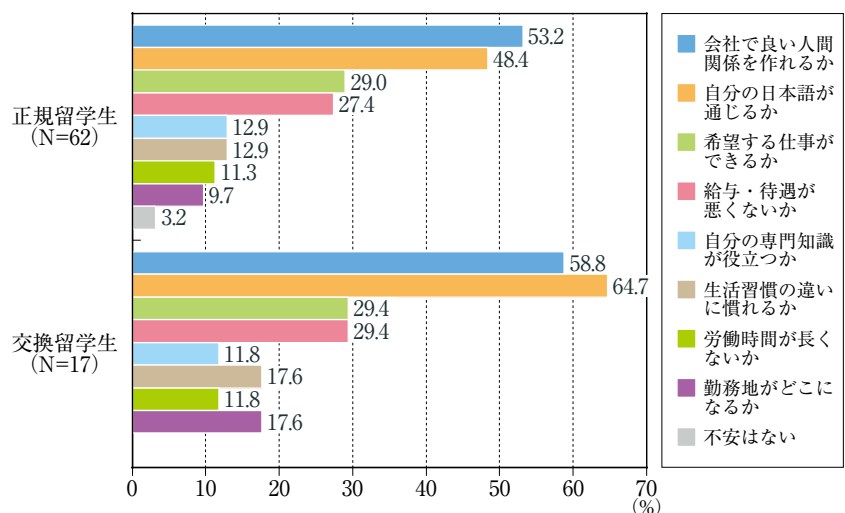
図表2 県内や日本で就職する場合の就職希望分野（複数回答）



図表3 日本で就職した場合、その後の将来について



図表4 日本で就職する場合、不安に感じること（複数回答）



ろ、正規留学生では「日本でずっと働きたい」が26人、40.6%と最も多く、次いで「将来は帰って就職したい」(12人、18.8%)であった。これに対し、交換留学生は「将来は帰って働きたい」が17人中7人(41.2%)であった。

日本で就職するときに不安に感じることを複数回答で尋ねたところ、正規留学生では「会社で良い人間関係を作れるか」が33人(53.2%)と最も多く、以下「自分の日本語が通じるか」(30人、48.4%)、「希望する仕事ができるか」(18人、29.0%)の順であったのに対し、交換留学生では、「自分の日本語が通じるか」が11人(64.7%)と最も多かった。

日本で就職した後、何年くらい日本で働きたいか尋ねたところ、正規留学生では「10年以上」が19人(32.2%)と最も多く、以下「1年～3年未満」と「3年～5年未満」がともに13人(22.0%)、「5年～10年未満」が11人(18.6%)であった。一方、交換留学生は「3年～5年」が6人(37.5%)と最も多かった。

図表5 日本で就職した後、希望する勤続年数 (人、%)

	合計	1年くらい	1年～3年未満	3年～5年未満	5年～10年未満	10年以上	わからない
正規留学生	59 100.0	1 1.7	13 22.0	13 22.0	11 18.6	19 32.2	2 3.4
交換留学生	16 100.0	1 6.3	4 25.0	6 37.5	3 18.8	2 12.5	-

日本で就職活動をする際に必要なことを尋ねたところ、「在留資格の変更手続きを簡単に、手続きの期間を短くしてほしい」と「留学生対象の就職情報をもっと充実させてほしい」が37人(61.7%)に上り、次いで「留学生対象のインターンシップを充実させてほしい」が21人(35.0%)であった。

図表6 日本で就職活動をする際に望むこと(複数回答) (人、%)

	合計	在留資格の変更手続きを簡単に、手続きの期間を短くしてほしい	留学生対象の就職情報をもっと充実させてほしい	留学生対象のインターンシップを充実させてほしい
正規留学生	60 100.0	37 61.7	37 61.7	21 35.0
交換留学生	16 100.0	9 56.3	13 81.3	10 62.5

最後に、帰国後、就職をどのように探すかを尋ねたところ、「インターネットで探す」が最も多く、正規留学生で30人(39.5%)、交換留学生で39人(52.0%)であった。

図表7 帰国してからの就職先について (人、%)

	合計	親や家族、親戚が経営している会社に就職する	友人が経営している会社に就職する	インターネットで探す	その他
正規留学生	76 100.0	4 5.3	2 2.6	30 39.5	40 52.6
交換留学生	75 100.0	2 2.7	1 1.3	39 52.0	33 44.0

今回のアンケート結果をみると、卒業後の進路について目標をしっかりと持ち、就きたい仕事に関しても将来のイメージをしっかりと描いている留学生在一定数を占めている。そうしたなか、「職場での人間関係が作れるか」、「給与や労働時間などの待遇面」などを不安に思う学生もみられることから、企業と留学生とが対話をするなどの接点を増やし学生の不安を取り除いていくこ

とが必要であると考えられる。また、「留学生を対象とした就職情報を増やしてほしい」、「インターンシップを充実させてほしい」といった意見もみられることから、こうした要望にもひとつずつ応えていく必要がある。

## 保険会社のお客サービス課で活躍する金イエスル氏 — プライアント（株） —

県内大学の留学生が卒業後、県内企業に就職し活躍している事例として、今回はプライアント株式会社（本社：佐世保市日野町、社長：橋口 久氏 社員数20人）を紹介する。

プライアント（株）は、1981年に橋口美佐子氏（前社長）が創業した損保代理店が前身。創業当時は、男性中心だったことから女性が損保業界に就職することすら難しかったなか、前社長が大手損保代理店のなかでも全国トップクラスの業績をあげるなどして、事業を成長させてきた。

現社長の橋口久氏は、米国留学や東京で日本語学校の事務長として勤務したキャリアを持ち、佐世保に帰郷後、事業を継承した。06年には社名をプライアントと改称。社名には、前社長が厳しい経営環境であっても芯のある柔らかさで“しなやかに”困難を乗り越え事業を発展させてきた功績や想いが込められており、社員に受け継がれている。

11年からは、従来の訪問型営業に加え、自動車保険や生命保険、年金保険の各種商品などを取り扱う来店型の保険ショップをオープン。13年には、中国の保険ブローカー企業と協業で中国遼寧省大連市にオフィスを開設。遼寧省に進出する日系企業のリスクマネジメントを通じた保険ブローカー業をパートナー企業と展開している。そのほか、来店型保険ショップの認知度向上と、地域の人と文化の交差点の場をつくりたいと考え、米国出身の社長夫人が中心となり事業所の敷地内で米国スタイルのコーヒーショップも併設している。

### ■外国人スタッフの採用

橋口社長は、「経営環境が目まぐるしく変わるなか、国内外の顧客のニーズを的確にとらえるためにも、性別や障害の有無、国籍などにかかわらず、多様な意見を取り入れながら企業を成長させたい」と語る。なかでも外国人スタッフが持つ様々な価値観と多様な能力が欠かせないと考えており、採用にも積極的で、現在、同社の外国人スタッフは、正社員ではアメリカ、韓国、中国（大連に駐在）の3名、過去にもアルバイトでイギリス1名、韓国2名の3名を雇用してきた。

また、「それほど規模が大きい企業であってもダイバーシティ経営は可能。留学生を雇用することでのデメリットは感じていない。メリットのほうがはるかに大きい」と語る。



## ■留学生の卒業後の活躍

正社員の外国人スタッフのひとり、金イエスル氏（'87年生まれ、韓国ソウル出身、女性）は、中学生の頃、福岡の中学校と学校間交流をした経験があり、学生時代を通じて語学を中心に学んできたことから、母国語のほか日本語（N1レベル）、英語が堪能である。

金氏は、11年3月、韓国の大学を経て、長崎短期大学英語科（現・国際コミュニケーション学科）へ留学。同年11月、同社のコーヒーショップでのアルバイト経験をきっかけに、同社が手掛ける保険事業を知り興味を持った金氏は、12年12月から翌3月まで4カ月間のインターンシップを経て、短大卒業後、正社員として就職した。

就職活動については、「橋口社長をはじめ相談相手が身近にいてくれたことや、アルバイトやインターンシップを経験でき、卒業後の姿をイメージできたことから就職を決意した」という。そのほか、住環境面においても、「会社が学校の近くにあり、学生時代の住まいに続けて住むことができた点でも恵まれていた」と振り返る。

一方、同社にとっては韓国の大型保険代理店との交流活動や、佐世保在住のアメリカ人顧客（主に米軍家族を対象とした保険取扱い）の開拓などを計画していた時期であり、金氏の語学力が国際業務を進めていくうえで必要だったことから採用につながった。

13年3月に入社後、同社の総務部・国際事業部の韓国部門を経て、お客様サービス課に配属された。最初は社内のニュースレターと会社のリーフレット作成などの自分ができる業務から少しずつ幅を広げていき、保険の設計や顧客からの電話・来店対応などを経験した。現在は、ISO品質管理業務やお客様サービス課の全般を担当している。金氏がこれまでに苦労したこととして挙げるのが電話対応で、「仕事に慣れるまでは外国人特有のイントネーションに初めて接するお客様の反応などについて不安があり、苦手意識があった」という。周りのサポートにも助けられながら経験を積み、克服していった。

また、金氏は、15年6月からカイゼンチームの一員としても活躍し、保険のパンフレットの在庫を必要最低限の発注ができるシステムでムダを省いたり、郵便物の新たな送受信管理システム

を効率的に変えるなど、社内の業務の改善や事務の効率化について積極的に提案し、それを実現させてきた。

16年には主任やISO9001品質管理責任者を務め、翌年からは課長に昇進し現在に至る。

今後は、「言葉だけでなく、金融関連の専門知識をさらに深めていき、キャリアを積み重ねていきたい」と語る。



ISO9001登録証明書の交付を受ける金氏・右側

（泉 猛）